

第 2 回 匝瑳市食育推進協議会 会議録

会議の概要

開催日時	平成 23 年 10 月 11 日（火）9 時 00 分から 10 時 40 分まで	
開催場所	匝瑳市民ふれあいセンター 1 階第 1 会議室	
出席者の氏名	委員	半田美智子、平山さとみ、小林淑子、大木秀子、渡邊悦徳 林暁男、南俊男、伊橋清二、椿隆夫、吉川昇、小林正幸
	事務局	作佐部勝美（産業振興課 統括）、鈴木美穂（産業振興課 副主査）
欠席委員	福島俊之、大木すみ江、越川八代枝	
議 題	(1) 市民意識調査の結果報告について (2) 計画骨子及び計画（案）について (3) その他	
配付資料	会次第 資料 食育推進計画策定のためのアンケート調査報告書 資料 匝瑳市食育推進計画（案）	

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局	第 2 回 匝瑳市食育推進協議会 開会の挨拶
会長	挨拶。 議題（1）市民意識調査の結果報告について、事務局から。
事務局	意識調査については、委託業者から説明する。
委託業者	資料 食育推進計画策定のためのアンケート調査報告書 を基に説明。
会長	意見等あるか。

発言者	発言要旨
委員	<p>小中学生の調査結果は貴重だ。朝食を「ほとんど毎日食べる」のが9割で安心した。また、匝瑳市の名産など、地産地消に絡めて学校を通して情報発信をしていかなければいけないと思った。中学校の方では無関心になってきているが、食物のことを知るためにしてみたいことで「料理教室」が小中合わせて5割となっている。私の経験上、料理教室では子どもたちの目が輝き、男が包丁を握って一生懸命作る。ふれあいパークの方が来て、サポートもしてくれる。</p> <p>そういった、料理を作り、試食をし、反省し、という体験を通すことが、特に中学では大事だ。中学になると、家庭科の授業が期間限定のようになり、期間によって調理実習だったり、裁縫だったりする。</p> <p>地域の人材の活用で、ふれあいパークの方など地域の方が来てくれて、包丁の使い方などを教えてくれる。たとえば、りんごの皮を剥くのが難しいことが体験を通してわかり、包丁の持ち方や安全な包丁の使い方を示しながら、剥き方を実演で教えてくれる。そういうところで、地域の方との交流を通して将来家庭をもった時に役立つものを、若いうちに身につけていくことは大事だ。</p> <p>今回の調査の結果を校長会等を通して、学校に関係するところについて伝えたいと思う。</p>
会長	<p>今お話にあったように、子どもたちが包丁を持たないことが多い。これは親の役目だと思う。勉強は学校で、家庭の教育は家でやるのが一番いいが、現状はそうはなっていない。また、今から2年前に県で食育の調査をしたときに、都会の子どもたちは朝食はほとんど食べていなかった。夕食も一人で食べている子どもが多かった。匝瑳市の子どもは9割が朝食を食べていて安心した。これを長く続けていかなければいけない。</p> <p>食育というのがわからないという結果は、親もわからないからだと思われる。何が食育かというのをここでしっかりと練って、地域や学校に広めていければいいと思う。</p>
委員	<p>今回の調査結果の全てを、今回の計画の期間内で具現化するのは難しいだろうが、食育という部分については市民に認知していただいて、市としてどのような具体策が提示できるかを計画の中で揉んでいただきたい。</p>
会長	<p>食育に取り組んでいるいろいろなところを見てきたが、なかには「これが食育か？」ということが多々あった。匝瑳市は匝瑳市の食育をやっていただきたいと考えている。</p> <p>議題（2）計画骨子及び計画（案）について、事務局から。</p>
事務局	<p>資料 匝瑳市食育推進計画（案）を基に説明。</p>

発言者	発言要旨
<p>会長</p>	<p>これが食育の計画の策定ということで、自分たちが実践できることを揉んでいかないと方向づけができないと思われる。</p> <p>食べることがどういうことかを理解させていかなければいけない。食と体験ということでどういうことをしていけばいいのか、子どもの「体験をしたい」という希望をどうやって実現していくのか。高齢者にも協力してもらい、長くやっていると本当の食育教育にはならないと思う。みなさんで実際にどうやっていけばいいのかを考えていかなければいけない。</p> <p>学校で畑をやっているが、それをサポートしている人が農業を知らないこともあるようだ。種を植えた後の管理ができていない。種をまく行為が食育の最初で、1年生～6年生まで同じ物を作らせて、年々いい物を作らせていくことが一番いいのではないかと思う。そういう積み重ねが大事だと思う。収穫、試食までやらなければ食育ではない。</p>
<p>委員</p>	<p>難しいところや大変なところを知らないといけないと思う。それを乗り越えて収穫できる喜びは全然違うと思う。巻き寿司にしても、自分で作ってみて、だからこそおいしいと感じる。補助は必要だが、難しさも教えていく授業があれば、もっと楽しくなると思う。</p>
<p>会長</p>	<p>A 委員、幅広く海匠を見られていてどう思うか。</p>
<p>A 委員</p>	<p>銚子あたりも行っているが、生徒達の体験が効果的だというのは明らかだ。食育ボランティア等の価値観は生徒たちに与える影響が大きい。今は我々が行っているが、ぜひ市町村版としてやっていただきたい。</p> <p>基本理念等についてだが、県全体をみると農よりも食事や栄養バランスや孤食等に取り組んでいるので、その辺ももう少し配慮してもいいと感じた。しかし、海匠は海匠の特徴があるので、良いところは継続していく必要がある。</p>
<p>会長</p>	<p>家庭の団欒は薄らいでいるが、匠瑤はなんとか保っているようにアンケートから感じられた。それらがこれ以上崩れないようにし、ボランティア等の協力を仰ぎ、子どもに教えていくことが一番だと思うが、B 委員どうか。</p>

発言者	発言要旨
B 委員	<p>その通りだと思うが、匝瑳市が県の食育計画に合わせてトップダウン型でやっていくのか、市の独自性を出して、独自の食育という方向でいくのか、それを決めるのが大事だと思う。問題はある程度出ていて、みなさんある程度熟知していると思うが、大きなプロジェクトで取り組むのは効率が悪いと思う。食育は多面性があるので、自分たちが関われる小さな取り組みをたくさん行っていく方がいいと思う。</p> <p>アンケート結果から考えると中学生が取り残されていように感じるので、彼らの聞く耳をもたせるためにも、農業、漁業、流通、料理教室など、専門的な人を呼んで行った方がいいのではないかな。</p>
会長	<p>大きくやらないで細かく取り組んでいくという話、食育に関する専門的な人を呼んで子どもたちに聞かせた方がいいという話だった。お金はかかるが、得られるものは多い。</p> <p>県の計画に沿うのが一番簡単だが、匝瑳市にちなんだものもいい。各学校での取り組みも必ずしも同じ事をする必要はなく、違うことをやって、そのそれぞれの取り組みについて発表会を行うとかの方がいいのではないかな。C 委員どうか。</p>
委員	<p>今まで聞いてきて思うところはたくさんあるが、食育の計画としては、柱を立てて力を合わせて土台を作った方がいろいろ出せると思った。土台を固めてからいろいろ力を入れてやった方がしっかりできるのではないかなと思った。</p>
会長	<p>確かにそのように基をしっかりさせてからの方が、木の枝が出るようになる。一本の筋道を立ててから、いろいろ取り組んだ方がいいのではないかな。</p>
委員	<p>各委員の仰っていることはわかるが、計画書を作る部分では今回示されているとおりに、計画の背景や位置づけや現状の認識等を、基本的事項として深めていかなければならないので、各委員のご理解をいただけるか諮っていただきたい。それから、計画の基本的考え方が3つあり、それをサポートする目標をつけて、それを具現化するための施策の展開が5つ取り上げている。いろいろな事業の展開は5つの基本施策に血を通わせ、肉付けるものになる。それにはいろいろなやり方があるが、現状の事業と新規の事業が必要となってくるだろう。ベースとなるものは、今お示ししてある方向でよいのか、あるいは変えた方がいいのかを意見を賜りたい。</p>
会長	<p>わかりました。施策の体系や施策等について、ご意見いただきたい。</p>
委員	<p>食育の問題は家庭にあるので、どこかに「家庭」という文字を盛り込んでいただきたい。</p>
事務局	<p>10 ページに家庭の項目を入れてあり、そこで施策を展開していくので、家庭についてはそこで表現させていただいている。</p>

発言者	発言要旨
会長	家庭をどういうふうにしていけばいいのかと感じた。ライフステージごとに細かく家庭について取り上げるというのも考えていく必要があるかもしれない。
事務局	基本施策2については、ライフステージに応じ、家庭及び地域において取り組み、望ましい食生活や知識についても、家庭及び地域で推進していく。
委員	計画の中で、体や心をつくるための食事や食卓があまり反映されていないように感じる。それらを理解するという部分が不足している気がするので、農から離れた項目の一つとして欲しい気がする。
事務局	規則正しい食生活や、健康管理については基本施策5に含まれている。食卓などの団欒については、基本施策2に含まれている。
南委員	そうやって答えていただくと議論にならないので、私としてはそういう意見を持っているということを受け止めていただければそれでいいです。
会長	食のバランスは、半年やそこらではきちんとできるものではない。ですので、骨子を決めてやっていく必要があるが、もう少し細かく考えてやっていく必要があると思う。
委員	生活習慣病の予防等も計画の中に入っているということだった。食については基本施策5で包括しているということでもいいのではないかと思います。方向性を示し、あとは各課で事業を展開していく。計画書では個別の事業についてまでは出せないということだ。
会長	<p>食と健康に関しては、医療関係者にも意見を聞いたほうがいいかもしれない。また、県から市町村に来る配布物をみて、市に合うものをやっていただきたい。</p> <p>食育は食べるだけでなく、いろいろなものが絡んでくる。一般的には食べることになると思うが、健康の大切さも理解してもらえるものになってもらえればいい。</p>
委員	<p>この計画は実践するための道筋でもあり、そこをポイントに意見を出してもらおうといいと思う。</p> <p>学校で取り組む食育については、継続して取り組む必要があると思う。</p>

発言者	発言要旨
委員	<p>食育を進めるには学校と家庭の役割があり、その2つが連携をしていかなければいけないと考えている。</p> <p>実際に学校では、給食はもちろん、社会見学や家庭科で食育を学んだり、「総合的な学習時間」で学ぶ。しかし「総合的な学習時間」が減って外国語の時間が増えてしまったので、なかなか時間を割くことができない。そこで地域の人材の活用という点で、地域に発信して力を貸していただくことも必要だ。</p> <p>また、各取組は、何のためにやっている活動なのか、基本施策などとの結びつきを意識する必要がある。</p>
委員	<p>食育は、食べさせて育てれば基本的にはいいと思っていたが、深いものだと感じた。個人的に幼い頃に土をいじることがなかったのが、食を支える農を理解するということが、まさしく匠瑳市なのかなと思った。</p> <p>食育は家庭が一番重要だと思うので、小さい頃から機会をつくっていくことが必要だ。市のほうで料理教室や農業体験などの募集をかけてもなかなか参加者が集まらない部分もあると思うので、学校の方で集団で強制的にやらせていただいて、そこから家庭に持ち帰るといったやり方があった方が進歩しやすいのではないかな。</p>
委員	<p>教育委員会としては、大きなテーマとしては給食センターの統合があり、食材の供給は地産地消を活かしていきたい。給食メニューで、匠瑳市の食材にはアンダーラインが引いてある。匠瑳市のもの、海匠のもの、千葉県のを、食の安全ということで給食センターに使ってもらっている。そういうところも活かしながら、情報提供等も含めてやっていきたい。</p>
事務局	<p>主な事業については後ほど入力ということで、専門部会で揉んだ後、次回の会議には記入したものをお出しする。</p>
事務局	<p>本日は、みなさまに方向性を諮っていただきたく、お願いした。今日いただいた意見は反映させていく。</p>
会長	<p>25 ページ以下の第4章も含めて、計画案はこれでよろしいか。</p>
	<p>(一同承認)</p>
事務局	<p>では、この案に基づき進めていく。</p> <p>次回の協議会では、全体像がみえる計画書にする。</p>
会長	<p>議題（3）その他について、事務局から。</p>
事務局	<p>みなさまからいただいた意見をもとに専門部会を行う。その後にもう一度協議会を開催する。次回は11月4日（金）を予定している。ご出席をお願いしたい。</p>

発言者	発言要旨
会長	議題は以上となる。 ありがとうございました。
	閉会